

氏名	羽 原 俊 宏
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 3698 号
学位授与の日付	平成 14 年 3 月 25 日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 4 条第 2 項該当)
学位論文題目	Elevated blood flow resistance in uterine arteries of women with unexplained recurrent pregnancy loss (原因不明不育症症例では子宮動脈血管抵抗は上昇している)
論文審査委員	教授 公文 裕巳 教授 清野 佳紀 教授 佐々木 順造

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

子宮血流は子宮の受容性を制御しているが、不育症症例における血管の変化は十分な解明がなされていない。121 症例（不育症症例 49 例、対照群 72 例）を対象に検討を行った。非妊娠周期黄体期中期に経膈超音波ドップラー法にて子宮動脈血管抵抗値 Pulsatility index (PI) 値、子宮内膜厚、血清エストロジオール (E2)、プロゲステロン (P4)、nitrite/nitrate 値を測定した。子宮動脈 PI 値は不育症群 (2.54 ± 0.45) が有意に対照群 (2.20 ± 0.35) より高値を示した。不育症群では抗核抗体陽性症例が陰性症例に比較し高値を示した。また抗核抗体陰性症例においても、PI 値は不育症群 (2.44 ± 0.41) が対照群 (2.19 ± 0.40) より高値を示した。そして血清 P4 と相関 ($r = -0.47, p < 0.01$) を示した。子宮動脈血管抵抗の上昇は不育症と関係しており、その測定は子宮循環の障害された原因不明の不育症症例を個別化するのに有用と思われた。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、不育症症例における子宮の血管性変化を他のパラメータとともに解析したものである。その結果、子宮動脈血管抵抗の上昇は不育症と関係し、Pulsatility index の測定は子宮循環の障害された原因不明の不育症症例を個別化するのに有用であることを示した。不育症の診断と治療における重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。